保健師最前線

「社会資源」になりたい

南山城村

しもむら　めぐむ
下村　恵 さん

丘陵には茶畑が広がり、豊かな自然は日本の原風景を残す。「自然環境は申し分ないんです。ただ、医療機関や介護事業所などの社会資源が少なく、住民さんの選択の幅が狭められているのが悩みの一つです」。課題や悩みに誠実に向き合う姿勢に「村民の健康を守りたい」という熱い思いを感じた。

村の保健師は２人（来春採用予定の保健師を募集中）ということもあり、母子、成人保健はもちろん高齢者の介護予防教室、さらには地域包括支援センターの仕事も兼務している。この日は乳幼児の予防接種が終わったばかりで、額に汗を残しながら取材に応じてもらった。

南山城村は、奈良県、三重県、滋賀県に接しており、地域や家族によって利用する医療機関などが分かれているという。「だから、いざという時に備えて赤ちゃんやお年寄り訪問のたびに住民さんと可能な限り話をして、その家族を把握しておかないといけなんです」

人生の先輩である村のお年寄りは「私の先生です」と話す。「地域で働く保健師である以上、もっともっと地元のことを知りたいんです。家庭訪問した際は、おじいちゃんやおばあちゃんに、地域の歴史や戦争の時の話などいろんなことを聞き、教えてもらいます」。仕事で悩んだ時は人生相談にも乗ってもらう。「年子の３人の子どもがいるんですが、子育てから梅干し作りまで教えを請うています。村の一番いいところは、学生さんらが来たら『なに勉強してるんや』と喜んで受け入れ、『教えたらなあかん』と思うてくれはるところです」

もう一つ心掛けていることがある。「私、数字の分析などが苦手なんです。ですので、分からない時や困った時は、だれに相談したら教えてもらえるのか考えるんです。そのために役場はもちろん保健所、病院、介護事業所などいろんな所に出向き、顔を覚えてもらうようにウロウロしています」。にっこり笑いながら、下村流人脈づくりを教えてくれた。

「結婚して、子どもを産んで、子どもを育て、今の自分のライフステージをそのまま仕事に生かすことができる。こんなありがたいことはありません」。村の人から教わったことや自分の経験を、いつか恩返ししたいと話す。「まだまだ未熟ですが、『下村』という人間が、南山城村の社会資源の一つになれるよう頑張りたいです」。「社会資源」という言葉に保健師・下村さんの志と覚悟を感じた。期待しています！